

花組の花組による花組のための日々

園芸別科花卉専攻2年

藤代裕太

今年度の園芸別科花卉専攻「花組」は、例年に比べて人数が少なく、1年生2名、2年生3名の5名で構成されています。私たち現2年生が入学したばかりの頃は、総勢11名で実習をしていましたが、現在はその半数にも満たない人数です。

しかし、人数が少なくなった現在でも、実験や1000属ハウスの灌水など、例年通り植物の維持管理を行っていかなくてはなりません。昨年度までは松戸キャンパスで実験植物を管理していましたが、今年度から1000属ハウスの植物とともに柏の葉キャンパスへ移動となりました。そこで、柏の葉キャンパスに在籍する花卉研究室の学生の皆さんとともに1000属ハウスの植物を管理しています。

灌水ひとつをとっても、すべての植物にただ水をかければ良いというわけでもなく、植物の状態や性質を理解した上で水を与えなくてはなりません。入学したばかりの頃は、早く終わらせたいと思いながらやっていたせいか、植物への気遣いができていませんでした。しかし、灌水の回数を重ねるごとに、植物の状態を確認しながら管理が行えるようになってきました。さらに、1000属ハウスを管理する上で重要なことは、植物についているラベルを確認しながら、植物の名前を覚えていくことです。我々「花組」にとって、花の名前を覚えることは、花の仕事に就く上で当たり前のことであると同時に、1000属検定試験の対策とも言えます。1000属検定は、花の科名、属名、属和名などを答える筆記試験で、A・B・C級に分けられており、C→B→Aの順で難易度が上がります。「花組」は別科修了までにC級を取るのが最低の目標ですので、目標達成のため、灌水の時間も植物の名前を覚えるのに必死です。

また、11月に開催される戸定祭では、「花組」は花屋を出店します。自分たちが育てた植物を自分たちの手で販売するという一大イベントのため、少ない人数

で準備に追われる日々です。植物の運搬手段や作業場所の確保など、考えることは尽きませんが、少人数で確実なイベントになることを優先的に考え、生産する植物をパンジー・ビオラ・ハボタンの3種に絞るなど、アイデアを出し合いながら一生懸命取り組んでいます。また、花組修了の緒先輩方からも事前に連絡をして、切花を提供して頂いています。この場をお借りして御礼申し上げます。

戸定祭が終わると今度は、修了論文の作成が待っています。2年生の各々がテーマを決めてそれに基づき実験を行い、その結果をまとめ、発表をするというものです。去年の先輩方が一生懸命に実験に取り組んでいた姿を思い出し、「今度は自分も！」と実験を始めると、実習の合間や実習後に残って取り組むのは体力的に厳しいものであることがわかりました。

また、植物相手ということもあり、なかなか計画したようには進みません。しかし、この追い込まれた状況の中で、焦る気持ちはもちろんありますが、それと同時に毎日が充実しているとも感じています。この経験は、他では味わえないことであり、この花組で学ぶことは、きっと将来の自分の支えになることなのだろうと思い、日々を過ごしています。



実習風景